■大川平三郎　　王子製紙の技術改善に貢献後，多くの製紙会社を興して"製紙王"，他事業にも進出して財閥を形成。
おおかわへいざぶろう
桜田門外変・1860＝　　武蔵国入間郡三芳野村で，川越藩士大川修三の次男に生まれる。母の母は富岡製糸場を作った尾高惇忠の妹みち子で，その妹は渋沢栄一の最初の妻。

生家は江戸時代の剣豪で農民の出ながら武蔵国川越藩の剣術師範となった祖父大川平兵衛が興した剣道場でもあったが，

明治維新・・1868＝ 8歳：
戊辰戦争終・1869＝ 9歳：
維新後，剣道が顧みられなくなり，経済的困窮から，

学問のすすめ1872＝12歳：_東京に出，大蔵省役人だった叔父の渋沢栄一の書生となり，この年渋沢が設立した抄紙会社に，
明治6年政変 1873＝13歳：
本郷の壬申義塾に通学，大学南校教師となる外国人からドイツ語会話などの手ほどきを受けた後，
初の民間工場1875＝15歳：_図引工として入社。志願して職工となり，イギリス人技師の助手を務め，

西南戦争・・1877＝17歳：_同技師が帰英して，抄紙方長になる。技術研修の必要性が社内で議論されたのを受けて，
大久保暗殺・1878＝18歳：
琉球処分・・1879＝19歳：_事業改善の建白書を提出，抜擢されてアメリカに派遣され，モンテギュー社などを実地見学して，
・・・・・・1880＝20歳：*帰国すると，副支配人に任命され，主導的役割を果たすようになる。
明治14年政変1881＝21歳：渋沢の勧めで，浅野総一郎のセメント事業にも関与して，技術支援。

岩倉具視没・1883＝23歳：稲藁パルプ製造を実現。
秩父事件・・1884＝24歳：_再び技術研修のため，化学パルプの技術革新が起こった欧州に赴き，

国民之友始・1887＝27歳：さらに，_再度渡米して調査，帰国すると，

帝国憲法発布1889＝29歳：_日本初の亜硫酸木材パルプ製造の事業化を成功させる。
帝国議会始・1890＝30歳：渋沢の四女(庶子)と結婚。
_さらに，木材パルプを原料とする抄紙技術の完成のために，大川式ダイゼスタアと称するパルプ製出機を発明するなど，製紙技術改善に大きく貢献し，

郡司千島探検1893＝33歳：_抄紙会社が王子製紙株式会社に改組されるとともに，専務取締役に就任，経営トップの一角を占めるが，
日清戦争始・1894＝34歳：

白馬会・・・1896＝36歳：_最大の株主である三井財閥が経営に参画して抑制策がとられ，
子規句歌革新1898＝38歳：*降格され，自らを支持する工員がストライキを起こすと，その責任を問われて，渋沢の会長辞任とともに，退社に追い込まれ，行動を共にした技術者・職工らと{四日市製紙}に移籍。

田中正造直訴1901＝41歳：_上海の華章造紙公司開業に際して乞われて同社の技師長を務めた後，
すでに，十分な私財を蓄えていたことから，
日比谷公園・1903＝43歳：*{東肥製紙}を再建の中心となって，最初の大川系企業となる{九州製紙}を設立し，社長に就任。

日露戦争終・1905＝45歳：
満鉄発足・・1906＝46歳：_渋沢の支援も得て，{中央製紙}，

ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝48歳：{四日市製紙}の役員に復帰。_続いて{木曾興業}を設立，
伊藤博文暗殺1909＝49歳：{中之島製紙}の会長。
祖父の開いた道場は小畔川沿いの低地で，小畔川や越辺川は度々氾濫を繰り返し，
韓国併合・・1910＝50歳：この年も大洪水を起こしたため，
明治天皇没・1912＝52歳：
大正政変・・1913＝53歳：_主力となる{樺太工業}を設立，各社の社長や会長に就任，独立製紙企業家としての地位を固めて行く。
第一次大戦始1914＝54歳：

埼玉県の産業界の要請で，銀行統合が行われ，
本格政党内閣1918＝58歳：{武州銀行}が誕生すると，請われて頭取に就任。_{四日市製紙}の社長に就任，
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝59歳：_ライバルたる{富士製紙}の社長も兼務して，両社の経営立直しの任にあたり，
大暴落・・・1920＝60歳：{木曾興業}を{中央製紙}に合併させる。
原敬首相暗殺1921＝61歳：

関東大震災・1923＝63歳：
護憲三派圧勝1924＝64歳：全額私費で地元の原次郎の協力を得て，1.1kmの堤防を建設，"大川堤"と呼ばれている。農村の衰退した現状を憂い，やはり私財を投じて{大川育英会}も創設している。
円本時代始・1926＝66歳：_{九州製紙}{中央製紙}などを{樺太工業}に合併集約，王子と肩を並べる製紙会社の経営者となり"製紙王"と称されたばかりか，渋沢・浅野・安田らと共同して，セメント・電力・ビール・炭鉱その他の諸事業にも進出し，大川財閥を形成して行くが，
共産党事件・1928＝68歳：貴族院議員，勲三等瑞宝章。_{富士製紙}の最大株主が死去，その株を{王子製紙}が買取って，社長の地位が危うくなり，{樺太工業}の経営も悪化したことから，
海軍軍縮条約1930＝70歳：_{樺太工業}{富士製紙}{王子製紙}の合同を主導するに至るが，
満州事変・・1931＝71歳：*渋沢栄一が死去したことにより，主導権を藤原銀次郎に握られ，
五一五事件・1932＝72歳：
国際連盟脱退1933＝73歳：_{王子製紙}を存続会社とする"大王子"が出現，社長就任も藤原から拒否され，以後，失意のなか，

二二六事件・1936＝76歳：_没した。
郷里の三芳野村の困窮を救うため，財政支援を続け，教育や消防の施設購入に私財を注ぎ込んだ。特に郷里の学校の校舎の建築・校庭の整備に幾度なく巨費を投じ，坂戸市立三芳野小学校などに頌徳碑がある。

法政大学叢書「企業家活動からみた日本のものづくり経営史」，インターネットWikipedia，